

喜界町



議会だより

171号

平成30年6月15日発行



今年度から3年保育がスタートしたあゆみ幼稚園



| | | |
|---|-------------------|----|
| 主 | 一般会計補正予算・特別会計補正予算 | 2 |
| な | 一般質問に4名が登壇 | 5 |
| 内 | 同意・議会のうごき | 11 |
| 容 | 読者の声・編集後記 | 12 |



発行／喜界町議会 編集／議会広報編集委員会
 〒891-6292 鹿児島県大島郡喜界町湾1746番地
 TEL:0997(65)1115・FAX兼用

平成30年度 一般会計当初予算

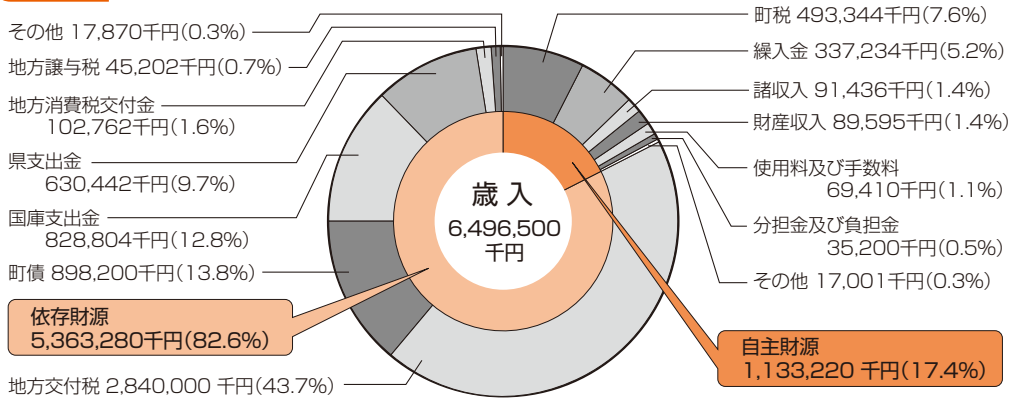
前年比 5億9,050万円(10%) 増額

64億9,650万円

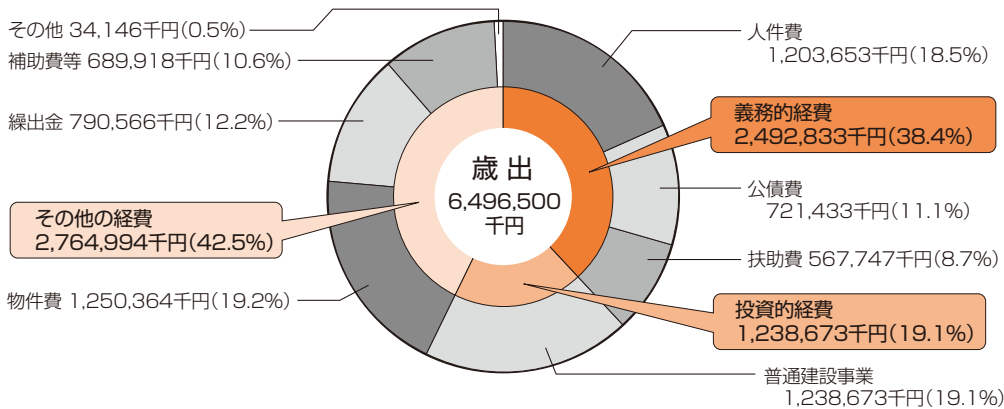
平成30年度 一般会計当初予算

(単位:千円)

歳入



歳出《目的別》



平成30年度 各会計予算総括表



(単位:千円)

| 会計 | 本年度 | | 前年度 | | 前年度比較 (A-B)C | 増減比 % (C/B) |
|------------------|-----------|-------|-----------|-------|-----------------|----------------|
| | 当初予算額 A | 構成比 % | 当初予算額 B | 構成比 % | | |
| 一般会計 | 6,496,500 | 66.6 | 5,906,000 | 59.7 | 590,500 | 10.0 |
| 特別会計 | 3,253,439 | 33.4 | 3,994,540 | 40.3 | -741,101 | -18.6 |
| 国民健康保険特別会計(事業勘定) | 924,960 | 9.5 | 1,354,182 | 13.7 | -429,222 | -31.7 |
| 直営診療施設勘定 | 26,048 | 0.3 | 25,154 | 0.3 | 894 | 3.6 |
| 簡易水道事業特別会計 | 572,188 | 5.9 | 969,661 | 9.8 | -397,473 | -41.0 |
| 屠畜場事業特別会計 | 1,586 | 0.0 | 1,648 | 0.0 | -62 | -3.8 |
| 介護保険特別会計 | 946,059 | 9.7 | 962,125 | 9.7 | -16,066 | -1.7 |
| 老人福祉施設事業特別会計 | 386,779 | 4.0 | 342,369 | 3.5 | 44,410 | 13.0 |
| 農業集落排水事業特別会計 | 134,049 | 1.4 | 55,349 | 0.6 | 78,700 | 142.2 |
| 公共下水道事業特別会計 | 165,440 | 1.7 | 188,052 | 1.9 | -22,612 | -12.0 |
| 後期高齢者医療特別会計 | 96,330 | 1.0 | 96,000 | 1.0 | 330 | 0.3 |
| 合計 | 9,749,939 | 100.0 | 9,900,540 | 100.0 | -150,601 | -1.5 |

平成30年第1回定例会は、3月2日から15日までの14日間開催されました。初日は、施政方針並びに平成30年度当初予算について説明があり、平成29年度一般会計補正予算・特別会計補正予算及び大島農業共済事務組合規約の変更8件を可決し、平成30年度一般会計予算・特別会計予算9件は予算審査特別委員会に付託し、条例19件は各常任委員会へ付託しました。また、固定

資産評価審査委員会の選任及び教育委員会委員の任命については、全会一致で同意しました。14日に4名の議員が登壇し、一般質問がありました。15日の最終本会議に予算審査特別委員会に付託された、平成30年度一般会計予算・特別会計予算、各常任委員会に付託された条例19件を可決しました。

◆ 平成30年度 一般会計当初予算の主なもの

| 担当課 | 事業名 | 予算額 | |
|----------|---|--|--|
| 総務課 | 集落活性化助成金 | 200万円 | |
| | 地域人材スキルアップ支援事業補助金 | 60万円 | |
| 総務課（消防署） | 消防自動車購入費 | 3,030万円 | |
| 企画観光課 | 農林水産物輸送コスト支援事業助成金 | 1,800万円 | |
| | 販路開拓・拡大サポート事業費 | 90万円 | |
| | 「あるもの再利用」による移住・定住促進事業費 | 100万円 | |
| | 移住体験ツアー支援事業補助金 | 50万円 | |
| | 公園管理委託料 3地区(A・B・C) | 700万円 | |
| | 公園トイレ清掃委託料 | 225万円 | |
| |  <p>いつでもきれいな公園トイレ</p> | | |
| 建設課 | 地方改善施設道路改良舗装工事費（中里） | 3,000万円 | |
| | |  <p>中里ふくり前</p> | |
| | 水産業振興工事請負費 | 3,340万円 | |
| | 漁港整備工事請負費 | 1,100万円 | |
| | 離島漁業再生支援交付金 | 480万円 | |
| | 道路新設改良舗装工事費 | 1,000万円 | |
| | 喜界島港改修工事費等 | 3億400万円 | |
| | 地域住宅交付金事業工事請負費（湾宮戸住宅） | 1億180万円 | |
| 火葬場管理委託料 | 430万円 | | |
| |  <p>喜界町火葬場</p> | | |
| | 一般廃棄物焼却施設整備費 | 5億2,610万円 | |
| 農業振興課 | 地域園芸活性化事業補助金 | 3,000万円 | |
| | 自然休養村管理センター備品購入費（音響機材購入のため） | 100万円 | |
| | 奄美農業創出支援条件整備事業補助金（3地区） | 5,430万円 | |
| | 県営畑地帯総合整備（担い手支援型）事業負担金 | 1,960万円 | |

| 担 当 課 | 事 業 名 | 予 算 額 |
|--------------|---|-----------|
| 農業振興課 | 農業次世代人材投資事業補助金 | 1,570万円 |
| | 農業基盤整備農道、水路等工事費（手久津久、塩道、城久） | 2,340万円 |
| | 木のあふれる街づくり事業等工事（早町小、湾幼稚園） | 1,600万円 |
| | カラス小屋設置工事（荒木地区）  荒木地区に整備予定のカラス小屋 | 300万円 |
| 農業振興課（加工センタ） | 備品購入費（そら豆皮むき機） | 220万円 |
| 保健福祉課 | 長寿祝金 | 450万円 |
| | 子育て世代元気ドック費用等助成金 | 120万円 |
| 教育委員会（生涯学習課） | 埋蔵文化財発掘調査費 | 1億1,770万円 |
| | 保健体育総務原材料費（総合グラウンド（原田農機）前入口コンクリート舗装のため）  総合グラウンド入り口、整備予定の原田農機前 | 80万円 |
| | スポーツ合宿誘致促進事業補助金 | 90万円 |
| 教育委員会（総務課） | スクールバス運行委託料（幼稚園・小中学校のスクールバス運行委託料） | 4,250万円 |
| | 入学祝い金 | 110万円 |
| | 喜界高校創立70周年記念事業寄附金 | 500万円 |
| | 町中高生海外研修派遣事業補助金 | 30万円 |
| | 国立大学進学応援事業費 | 110万円 |
| | 小学校建設修繕料 | 210万円 |
| | 小学校建設設計委託料 | 530万円 |
| | 中学校建設費 | 950万円 |

一般会計補正予算第9号、1億5342万追加（総額76億2601万）

◆ 補正予算の主なもの

| 担 当 課 | 事 業 名 | 予 算 額 |
|-------|------------------------|---------|
| 総務課 | 奄美群島成長戦略推進交付金事業（工事請負費） | 7,000万円 |
| 保健福祉課 | 障がい者自立支援給付金 | 550万円 |

一般質問

町政のことが聞きたい

第1回定例会で4名の議員が町政全般にわたり一般質問を行いました。質問と答弁を要約して紹介いたします。



質問する
生駒 弘 議員

小中学校に於ける救命教育について

質問①

学校での心肺蘇生教育の普及推進について。

質問②

突然死ゼロを目指した危機管理体制の整備について。

突然の心肺停止から命を救うためには、心肺蘇生・AEDの知識を体系的に普及する必要がある、学校での心肺蘇生教育はその柱となるものであります。しかしながら、未だなお、毎年7万人に及ぶ方が心臓突然死で亡くなっています。

学校でも毎年100名近くの児童生徒の心肺停止が発生しております。

その中には、平成23年9月のさいたま市での小学校6年生の女子児童の事故のようにAEDが活用されずに救命できなかった事例も複数報告されています。

そのような状況の中、すでに、学校における心肺蘇生教育の重要性についての認識が広まりつつあり、平成29年3月に公示された中学校新学習指導要領保健体育科の保健分野では、「応急手当を適切に行うことによって、障害の悪化を防止することができること。また心肺蘇生法などを行うこと。」と表記されているとともに、同解説では、「胸骨圧迫、AEDの使用などの心肺蘇生法、包帯法や止血法としての直接圧迫法などを取り上げ、実習を通して応急手当ができるようにする。」と明記されており、しかしながら、全国における教育現場での現状を見ると、全児童生徒を対象にAEDの使用を含む心肺蘇生教育を行っている学校

は、平成27年度実績で小学校が4.1%、中学校が28.0%、高校で27.1%と非常に低い状況にあります。

そこで喜界町においても、児童生徒、教職員に対する心肺蘇生とAEDに関する教育を普及推進するとともに、学校での危機管理体制を拡充し、児童生徒の命を守るための安全な学校環境を構築することは喫緊の課題と考えますが如何でしょうか。

喜界町の小中学校における児童生徒への心肺蘇生教育の現状と今後の方向性、また学校におけるAEDの設置状況、さらに教職員へのAED講習の実施状況など具体的な取り組みも含めご答弁ねがいます。

答弁 教育長

各学校では、毎年、喜界消防分署の職員を講師に招いたりして、児童生徒の避難訓練、PTAの保健委員会や家庭教育学級等で、AEDを使って心肺蘇生教育を実施している。

また、ご指摘ございましたように、中学校においてはこれまでも保健体育の保健分野において、「応急手当を適切に行うことによって、障害の悪化を防止することができること。また、応急手当には、心肺蘇生法があること。」を学習してきましたが、今回の学習指導要領改訂にお



心肺蘇生に使用されるAED

いては、「心肺蘇生法などの応急手当の技能の内容が明確に示され、新たに障害の予防について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。」が強調されています。

喜界中学校で使用しております保健体育の教科書「新中学保健体育」では、「第3章・障害防止、6 応急手当の意義と基本―実習・心肺蘇生法」が6ページにわたってカラー写真入りで載っており、具体的なAEDの使い方が説明してあります。喜界中学校では、2年生で学習しております。

児童生徒の「命・安全・健康」は教育活動最優先事項でありますので、今後とも心肺蘇生教育の充実を図り、教職員・児童生徒・保護者等に様々な活動等とおして、AEDの使用法をしっかりと習得させたいと考えております。また、AEDの設置場所の広報・周知につきましては、喜界消防分署からもらったAED設置場所MAP」を各学校等に送付して、突然死ゼロを目指した危機管理体制の整備につとめている。



質問する
良岡 理一郎 議員

老人福祉施設の民営化は喜界町財政改革大綱に基づいてない。民営化の是非から議論すべきではないか。

質

執行部は、老人福祉施設すなわち特別養護老人ホーム「喜界園」と老人デイサービスセンター「喜界園」の2つの施設について、「喜界町行財政改革大綱に基づき計画的に進めている。」としている。その大綱では「老人福祉施設の民営化の際には財政面、雇用面での効果」が得られることを条件としているが、今進めている老人福祉施設の民営化ではこの二つの条件を満たしていない。

特に財政面において老人福祉施設は黒字基調の健全経営である。この間の老人福祉施設事業特別会計の基金積立額は過去7年間で毎年平均3,000万円も積み立て約2億1,400万円にも達している。喜界園の民営化は大綱が求める財政面の効果が期待できるどころか、民営化すれば

町財政を悪化させる逆効果をもたらすと言わざるを得ない。町民から「特老喜界園は黒字だったの」と驚きの声がかかる。

そもそも特別養護老人ホーム喜界園は民営化の対象にはなりえない施設ではないか。大綱決定の大本である喜界町行財政改革推進委員会提言書において特老喜界園は健全な経営状況にあるとして一言も民営化について言及していない。雇用面について、すでに民営化した近隣自治体で

の経験では、民営化後3年間で100名も退職した事実もある。民営化に過大な期待は禁物である。

質

喜界町行財政改革大綱が求める財政面と雇用面での効果につき、現在の民営化計画との整合性を伺う。

答

老人福祉施設長

民営化の目的は、行財政改革による地方公共団体のスリム化と施設運営の安定的な継続と充実である。

黒字事業である、基金がある現状から施設の運営は良好な状況にあると多くの町民が思われるが、施設運営はサービスマン収入の減少、大規模な修繕、高齢化・人手不足など課題も多い。民営化を急ぐべきである。

質

応募法人、審査の状況、選定結果の発表時期及び発表方法について伺う。

答

老人福祉施設長

応募法人は1社、書類審査のみ終了、今後面接調査を予定。応募法人が候補者に選定された場合、本町ホームページや広報きかいなど活用



喜界園

しすみやかに発表する。

質問

老人福祉施設事業特別会計の基金の処分方針について伺う。

答弁

老人福祉施設長

新たな高齢者福祉施策の拡充を考えている。

質問

平成31年4月1日に向けてのスケジュール、議会への報告・手続きについて伺う。

答弁

老人福祉施設長

応募法人が候補者となった場合、6月議会へ報告、仮契約締結した後関係条例の廃止及び財産譲渡に関わる議案を9月議会までには議案を提出する。

野生シカの生息数の把握はこれから

質要

私は平成28年第4回定例会（12月議会）で、シカの被害問題を取り上げ、その後も目撃・被害情報が寄せられ、農家の方は「一刻も早く駆除

してほしい」と切実に訴えている。

本年1月9日付の新聞によれば、喜界町が「自動撮影カメラによる生息状況の実態調査に乗り出す」と報じられています。そこで伺います。

質問

現在の被害状況はどうか。カメラの設置によりシカの生息数と生息地はどの程度把握できているのか。シカの捕獲・駆除頭数、最終的なシカ肉の処分について伺う。

答弁

農業振興課長

サトウキビの新芽やかんきつ類の樹皮、牧草への被害が確認されている。シカの生息地は小野津や志戸桶、百の台周辺と把握している。生息数は完全に把握できてない。監視カメラの設置で実態把握の取り組みを進め、さらに詳細に把握できる手段も検討していく。シカ肉の処分は猟友会が行っている。

質問

生のシカ肉はE型肝炎に感染するリスクが指摘されている。本町でも山羊やシカの肉は加熱して食べるよう周知する必要があるのではないか。

答弁 住民課長

本町では山羊の生肉を食する文化がある。と畜検査要請時に食する方の名前を記載して頂き、記載された方のみに供する誓約書を提出いただいている。山羊肉やシカ肉を加熱して食べることの周知は保健所の助言をもらいながらリスクを周知していく。

国民健康保険税は据え置き

質問

本年4月からの広域化に伴い国民健康保険税の変更が予定されている。鹿児島県の「2018年国保事業費納付金」の最終案によれば、本町の激変緩和措置後の1人当たり保険料必要額は年額69,572円である。増額が935円、伸び率で上限の0.68%である。町民の厳しい生活実態から国保税は据え置くべきと考える。如何か。

答弁

税務課長

先月開催された喜界町国民健康保険運営協議会において、税率の据え置きが承認された。今後も国保事業を取り巻く環境は厳しい状況が続くと思われる。収納率の向上や生活習

慣病の重症化予防への取り組み等を通じて国保税の負担増が抑えられるよう努めていく。



質問する
榮 哲治 議員

農業振興について

質要

本町は基幹産業である農業の安定的な所得向上を目指し、農業立島を打ち出しておりますが、本町の農業情勢は、農業人口の減少や高齢化の進展で大変厳しい時を迎えている。

基幹作物であるサトウキビの平成29年度生産量は収穫面積1,400ha、生産量81,600トン、単収5,828kgの見込みで12月15日から3年連続の年内操業でスタートした。

しかしながら、昨年10月下旬の相次ぐ台風の来襲で、糖熟期を迎えたサトウキビは大きな被害を受けた。現在のところ生産量には大きな変動はない見込みですが、品質面では平成6年、7年期の品質取引開始以来、

最悪の状況で推移しており、農家手取り額の減少が懸念される。そのような状況の中、畜産の仔牛価格は依然として高水準で推移している。

また園芸作物では露地野菜のカボチャや新規作物の唐辛子やブロッコリーが数年で大幅な実績を伸ばしている。これも現町政が掲げる儲かる農業、雇用を生む農業への転換の表れだと思う。サトウキビを守りながら園芸振興を強力に推し進める必要がある。そうする事によって新たな地下ダムの建設が可能となる。農業で一番基本となるのは土作りと水の確保、それに支援だと思う。そこで4点について質問。

質問 堆肥センター建設はどのように進んでいるか。

答弁 農業振興課長

堆肥センター建設計画についてありますが、今年度は県と先進地視察や意見交換等を行っており、来年度以降は、建設から運営までを検討する協議会等を設置し、本町の実情にあった牛糞やバカス等の資材等を使った堆肥を試験的に製造し、平成32年度事業採択を目指す。

質問 調査中の段階である地下ダムの実現性はどうか。

答弁 農業振興課長

調査中の段階である地下ダムの実現性についてであります。今年度中に第二地下ダム受益地区予定となる三条資格者への仮同意を進めて参る。実現性としては、既存の地下ダム効果として、高収益作物への転換が進んでいる事が必要条件であり、トマトやカボチャ、ブロッコリー、マンゴーをはじめとした園芸、果樹栽培面積並びに生産者が増えてきておりますので今後とも引き続き第二地下ダム実現に向けて関係機関、生産者と連携して取り組んでいく。

質問 選果場の建設は考えられないか。

答弁 農業振興課長

選果場についてであります。園芸作物の面積が増えたことに伴い、JAの選果場が収穫された作物で手狭になってきている状況下であり、現在JAを含めて検討をしている状況である。

質問 地域園芸活性化事業の今後の取組について。

答弁 農業振興課長

「地域園芸活性化事業の今後の見通しについて」であります。この事業は、過疎債のソフト事業の枠の中で、財政当局と協議の上、予算を確保している。来年度も引き続き土作り支援、栽培資材の助成支援、新規栽培者支援、栽培施設の設置支援

など事業の計画通り進めていく。

図書館運営について

質問

図書館購入費の増額は考えられないか。

答弁 生涯学習課長

鹿児島県の公共図書館の資料によると、喜界町の住民一人あたりの図書購入費は平成28年度・平成29年度予算の2年間は湧水町に次いで第二位であり、住民一人あたりの図書購入費は400円である。県全体の市町村平均額1308円の3倍以上となっており、現在図書購入費の増額は考えてない。

質問

読書通帳の導入は考えられないか。

答弁 生涯学習課長

図書の貸し出し履歴を印字できる通帳型冊子は、龍郷町生涯学習センター図書室が去年から導入している。今後、県や地区の動向を見ながら検討して参る。



JA選果場

質問

移動図書館車の導入は考えられな
いか。

答弁 生涯学習課長

図書館では、地理的に貸出しが困
難な学校を中心に移動図書館を実施
している。

少子高齢化に伴い、子供達の読書
冊数の減少、また高齢者は図書館ま
で本を借りに来る事が困難なことも
あり、平成28年は本町の町民一人あ
たりの貸出冊数473冊で、平成27
年度以降の鹿児島県内での上位ベス
ト10から外れております。町民の読
書活動の促進を図るため、大島地区
内の導入・運用状況等を参考にしな
がら今後検討して参る。



質問する
榮 優太 議員

人口減少問題や移住支援、
空き家対策について

質
要

少子高齢化が進み本町の人口も大
幅に減少傾向を迎えており最近、町
のいたるところで人手不足と耳にす
る。人手不足は事業所にとって一番
の痛手となり、営業時間の縮小に伴
い売り上げ減少や、事業拡大をした
くても人手不足により新たな事業展
開ができないなど、人口減少はあら
ゆる面でのマイナスになっている。

また、人口減少は地方財政にも大
きな影響を及ぼす、人口減少とそれ
に伴う経済・産業の縮小によって、
地方公共団体の税収入は減少するが、
その一方で、高齢化の進行から社会
保障費の増加が見込まれており、地
方財政は益々厳しさを増していく事
が予想される。こうした現状を次世
代の島の子供たちに私たちは何を残
せるのか？何ができるのか？しっか
り議論し、人口減少と戦っていか

質問

ければならない。

広報喜界に掲載されている本町の
人口、世帯数によれば平成30年1月
現在、世帯数3,840戸、人口7,
242人となっているが、実際は
もっと少ないのではないか。

答弁 住民課長

広報喜界に掲載されている人口は、
住民基本台帳の人口で、国民健康保



空き家になっている住宅

険、国民年金、選挙人名簿等、住民
の方々に関する行政サービスの基礎
となっている。住民基本台帳に記載
された人口の他には、国税調査によ
る人口を基にその後における各月の
人口の動きを考慮して算出した推計
人口がある。その推計人口では、平
成30年1月現在、世帯数3,259世
帯、人口6,970人となっている。

質問

平成20年1月末、世帯数3,759
戸、人口8,382人いた人口が10年
経過後、世帯数およそ80戸減、人口
およそ1,140人程減少している。
毎年1000人程減少傾向である。
5ヶ年計画の総合戦略の取組成果が
みられないが、前年度の評価結果を
伺う。

答弁 町長

我が国においても、喜界町におい
ても人口減少問題が最大の課題であ
る。「喜界町人口ビジョン」におい
ては、今後も人口減少は避けられな
いものの、減少幅を抑えて2060
年には5,500人に留められるとし
ているものです。

本町総合戦略は、人口減少問題や
雇用、子育て等における課題を克服

し、地方創生を成し遂げていくため、(喜界町人口ビジョン)に基づき、

平成27年度から平成31年度までの5ヶ年の取組についてまとめたものである。現時点での取組み評価について、国税調査の数値で本町の人口をみると、平成22年は8,167人、平成27年は7,212人と、5ヶ年で955人(年平均191人)減少している。ただ最近3年間の自然動態、社会動態をみると、平成27年がマイナス148人、平成28年がマイナス124人、平成29年がマイナス113人と少しづつではあるが、減少幅が小さくなっている。特に転入と転出を差し引いた社会的増減は、平成24年のマイナス170人。平成25年は108人から、平成29年はマイナス22人と大幅に減少している。

質問

移住支援制度の充実を図り、もつと島に移住したくなるような支援や、島をもっと知ってもらうようなPR活動が必要ではないか？実際に移住体験してもらうツアーやプログラムの開催等、また空き家を利用し1泊千円のお試し移住暮らし体験などをしたかどうか。

答弁 企画観光課長

PR活動について、今年度は奄美群島広域事務組合と連携して、首都圏での移住相談会に4回参加した。パンフレット配布だけでなく、移住を検討されている方と直接対面して本町の魅力を伝える取り組みを実施している。移住体験ツアーやプログラムについては、毎年、奄美群島広域事務組合と連携してツアーを実施しており。今年度は台風により中止。また本町主催で離島経済新聞社と連携してツアーを実地しており、プログラムについても単に観光地を回るだけでなく移住者との交流や不動産業者との面談なども取り入れ、今年度から総務省の事業を活用し、農家の協力をいただきながら、(ファームステイプロジェクト)を実地し、農業体験者を19組41名受け入れていく。今後とも各種団体と連携を視野にいれ、ツアーを実地して、移住に結び付けられるよう取り組みを進めていく。

質問

「本町の空き家件数はどれくらいか？移住できる(貸出し)できる空き家は何件あるか？」空き家はあるが貸出ししてくれないのをよく聞く

が対策は講じられないか。

答弁 企画観光課長

本町の空き家件数は平成28年度空き家実態調査では、462軒となっている。次に「移住できる(貸出)できる空き家は何軒あるか？」という点は、賃貸もしくは売却を考えている方が「6軒」となっている。

「空き家はあるが、貸出してくれないのをよく聞くが、対策は講じられないか？」について、町内の不動産業者と協力して空き家バンクを創設し、ホームページなどで空き家情報も提供していきたいと考えている。また、これと関連して空き家改修モデル事業を平成30年度より始める。

質問

空き家も借りられない、住む家もないのが現状だがUターン、Iターンの受入れもできない状況で移住者が増えると思わないがどのようにお考えか？人口増加の一番の重要課題だと思いが対策はあるのか。

答弁 企画観光課長

ご指摘のとおり、貸し空き家が多いわけではありませんが、今年度は3組5名の移住に繋がっている。今

後は、町内の不動産業者と協力して空き家バンクを創設し、空き家の情報提供にも努めて参りたい。

質問

今後も急激に減少していくと思われるが本町として人口を減らさないように政策を進めていくのか、人口を増やす為に移住支援、定住促進に力を入れていくのか伺う。

答弁 企画観光課長

移住支援・移住施策は重要な施策の一つだと考える。特にUターンが鍵になるのではないかと考えます。島でどうゆう人材を必要としているのかに応じて、担当者や関係者がUターンを呼びかける事も必要であると思う。

住宅施策につきましては、役場の担当や地域おこし協力隊が関わっている。

同意

● 教育委員会委員の任命

榮 四枝 氏



任期は、
平成30年3月24日から
平成34年3月23日

● 固定資産評価審査委員会委員の選任

岩切 進一郎 氏



任期は、
平成30年4月1日から
平成33年3月31日

議会のうごき(3月～5月)

3月1日 喜界高校卒業式

3月2日 平成30年第1回喜界町議会定例会開会

3月5・6・7日 予算審査特別委員会

3月9日 各常任委員会

3月13日 喜界中学校卒業式

3月14日 一般質問

3月15日 最終本会議

3月20日 あゆみのぞみ幼稚園卒園式

3月22日 喜界・早町小学校卒業式

4月6日 小中学校入学式

4月7日 喜界高校入学式

4月10日 あゆみのぞみ幼稚園入園式

4月12日 議長・事務局長合同会(奄美市)議長

4月13日 新任教職員受入式

4月26日 県政説明会(鹿児島市)議長

5月9日 議員研修会(鹿児島市)全議員

5月16日 奄美群島市町村議員大会(徳之島町)全議員

5月28日 全国正副議長研修会(東京都)議長

平成30年第1回(三月)定例会『議会だより171号』の発行が遅くなりましたことを、深くお詫び申し上げます。

議会広報委員会 委員長 生駒 弘

浅利 秀年

今から40年前はじめて喜界島に家族旅行に行きました。当時のことは殆ど覚えておらず、フェリーでの強烈な酔いしか記憶にありません。あれから約40年の月日がたち仕事で縁あって昨年の8月末から喜界島で勤務することになりました。喜界空港に到着し島を一周し昭和のような町並みと透明度の高い海に即座に魅了されました。喜界島で知っていたのはさとうきび、黒砂糖、黒糖焼酎ぐらいで、山や川がない、風邪が強すぎて冬は寒い、山羊を食べる、方言が全くわからないなど知らないことが多いです。

さて「喜界島」の印象を地元、島外、勤務で住んでいる方に尋ねると殆どの方が「喜界島はいいところ」と答えます。どういう意味なのか？自然で景観がいいのか、いい食材があつて食べ物がいいのか、この部分では他の離島と比較してアドバンテージを有しているわけではなく、いいところの最大のキーワードは「あたたかい島の皆様方」だと思えます。

喜界島も他の地域同様最大の課題である人口減少は避けられない状況にあります。人口減少が招くものは供給の制約と需要の減退に他ならなく、故に供給制約を克服するために生産性革命が起ります。直近の革命は20年以上前のインターネットの発明これに

拍車をかけたのがスマホ。今後は島内もAI等登場でIT化が更に進むと思われれます。

今喜界町は年々入込客数が増加傾向にあります。町や飛行場にも観光客らしき人が多いように感じます。航空運賃が高い、船舶の入出港時刻が夜間や早朝など交通インフラの改善が必要な状況の中、入込客数は増加しており、喜界島の弱点と思われる宿泊施設不足、情報発信不足、収益性の滝コンテナ整備をすれば観光客の確保は可能と思われれます。

喜界島は若い人が少なく、高齢者が多いと言われますがこれは見方を変えれば強みであると思えます。町を活性化するために、町を美しく保つために又観光客案内のために社会に参加していることを喜びとするような高齢者の労働力は豊富にあります。特に観光に來られた島内のおもてなしは大先輩方ではないとできない領域となつている気がします。地域住民が楽しめる町は観光客も楽しめる。喜界島を一番楽しんでいるのは大先輩方かもしれません。町が活性化すると観光が魅力的にもなるが、何よりも雇用が生まれます。宿泊施設の増加、喜界島限定の食材の生産加工施設の増加、インフラ整備などこの島の近未来は希望とか夢ではなく目標であり、目標は達成しなければなりません。

編集後記

平成30年度第1回定例議会は町長の施政方針と一般会計予算審議が主な議題でありました。今、町民が求めているのは50年に一度の豪雨災害の復旧であります。

新聞報道によりご存知の通り、本町が局地激甚災害の指定を受けました。一時にすべてを解決できないにしても、緊急を要する農地や主要道路の復旧は始まっております。その他の災害についても、順次時を待たず復旧する運びであります。

さて、広報委員会では、議会活動をより身近に感じて頂けるような紙面作りに取り組んでおります。予算計上は勿論、各委員会による先進地視察研修の内容などを、よりイメージがわくように、写真の掲載や具体的な説明など工夫しております。

今後もう一人でも多くの町民の方々に見て頂けるよう努めて参ります。また町民のくらしに直結する課題については、知恵を出し合つて解決の道を求めて参ります。

最後に今回、読者の声を快くご執筆頂いた浅利氏に深く感謝申し上げます。

議会広報委員 峰山 恵喜光